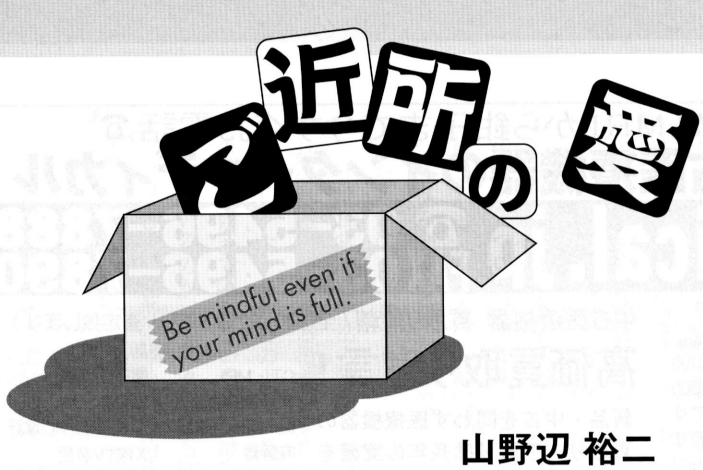
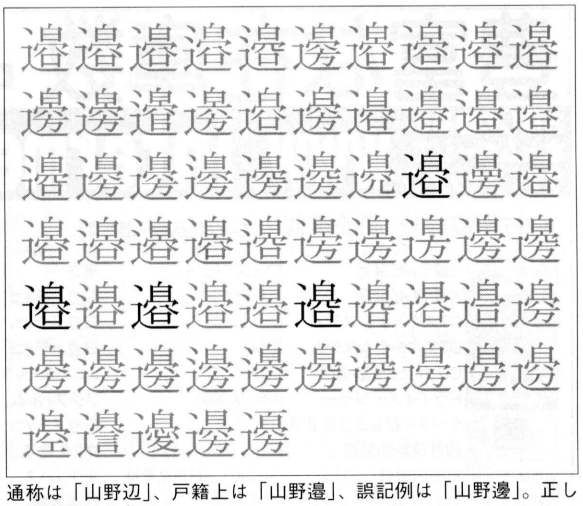


山野辺 裕二
長崎大学医学部・歯学部附属病院　医療情報部



通称は「山野辺」、戸籍上は「山野邉」、誤記例は「山野邊」。正しい漢字はこの中に。

【第１回】
親兄弟で３つの名字

今月からこの頁を担当させていただくことになりました山野辺裕二です。よろしくお願いします。先月まで書いておられたのが大庭祐二さんということで、偶然にも同じ「ゆうじ」のリレーとなりました。今回はこのような「似ている漢字」の話をしたいと思います。

初級編　「祐二」と「裕二」

私に届く郵便物やメール等にはよく「山野辺祐二」と書いてあります。現在のようにパソコン等で日本語が手軽に扱えるようになる以前は、こんな間違いはまずありませんでした。私はこの現象を「ＩＴ誤記」と呼んでいます。

手元のパソコンのカナ漢字変換辞書の初期設定を調べてみると、「祐二」が先に載っています。この事実から考えると私と逆、つまり「祐二」さんが「裕二」と誤記されることの方が少ないのではないかと思います……。こんな考察、私以外興味のある方はいらっしゃらないでしょうね（笑）。

というわけで、私自身はこのように名前を誤記されることはしょっちゅうですので、いちいち気にすることはありません。さすがに印刷物など多くの人の目に触れるものの中で間違われるのは困りものですが。

人間というのは便利な生き物で、「山野辺裕二」も「山野辺祐二」も同一と見てくれることがほとんどです。しかし、コンピュータはこの２つを別人とみなすでしょう。

中級編　子ども２人は別の姓

職場の病院情報システムの患者検索機能をテストしていて、不思議なことに気づきました。私には子どもが２人います。２人とも病院に受診歴があるはずなのですが、「山野辺」で検索すると、検索結果の画面に出てこないのです。

私の姓は、正しくは「山野邉」と書きます。「山野辺」は実は通称というわけです。私が自分の初診申し込みを書いたときは「山野辺」と書いたので、コンピュータにもそう登録されているのです。

カタカナの「ヤマノベ」で検索してみると、ちゃんと子どもたちの名前も出てきました。しかし兄弟２人の姓も異なっています。片方は正しく「山野邉」ですが、もう一人の姓は「山野邊」と誤記されています。初診時にコンピュータの入力担当者が間違えたものと思います。親子３人がそれぞれ別の姓で登録されているというわけです。

困ったことにこの誤記率は「祐二」の比ではありません。私が「山野邉」と書いても、ひとたびコンピュータを通ってくると十中八九「山野邊」にされてしまいます。

ＩＴ全盛の今日、これは非常に危険なことです。もし個人を名前だけで識別していれば、試験の合否などの問い合わせに対して誤って「該当無し」とされたり、別人と誤認される可能性が考えられます。

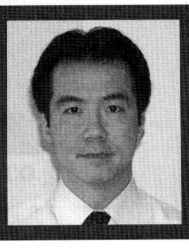
私も院内の医療安全に関わっています。患者誤認防止のためいろんな情報技術が採用されようとしていますが、このような漢字のＩＴ誤記についても今後は注意が必要かなと考えています。

上級編　400年の歴史はどうなる

今までは漢字の誤記の話でしたが、私は更に困った問題に直面しています。実は、私の名字は両親とも違うのです。

私が結婚して戸籍を作るとき、当然親と同じ名字で届け出ようとしたのですが、その自治体の戸籍はコンピュータ化されており、コンピュータにある字でなくては受け付けてもらえませんでした。それで泣く泣く「山野邉」にしたのです。

日本で人名に使われてきた「邊」や「邉」のバリエーションは優に100種類はあるとのことです。我が家の先祖はよくわかっていませんが、一説には1600年頃今の山形県山辺町に城を構えた「やまのべ」氏だということです。両者の「べ」の字体が全く同じなので説得力があります。もしそうだとすると、400年続いてきた我が家の名字は私の代で唐突に変わってしまったのです。それもたかだか20年くらい前に出てきた「コンピュータの都合」という情けない理由で。

今、私は迷っています。直面するＩＴ誤記による不都合対策のために、いっそのこと戸籍上の名字も「山野辺」にしてしまうか、いつの日かコンピュータが正しい「べ」を扱える時まで、似て非なる「山野邉」で耐え忍ぶか。しかし、私の代では「その日」はやって来ないような気もしています。

やまのべ・ゆうじ●1986年長崎大学卒業。形成外科の勤務医として九州、四国の病院に勤務後、99年に念願の医療情報部門へ転籍。03-04年米国マウントサイナイメディカルセンター医療情報学研究員。現在院内では医療情報部の副部長に加えて経営企画部副部長、安全管理部、臨床教育・研修センターを併任。他に広報・衛星通信・診療情報管理等も担当。最近の趣味は通信教育受講。